

Bチャレ 新たなつながり部門 実績報告書

団体名	特定非営利活動法人リープ・ウィズ・ドリーム	作成日	3月19日
事業名	「地域防災力の向上を高める 防災バリアフリーマップつくり」 －いざという時を平時から考える－		
協働団体	文京区：防災課、防災課より派遣：NPO法人日本防災環境、町会を中心とした地域コミュニティ：大塚小学校避難所運営協議会（大塚上辻町会・大塚四丁目協力会・大塚仲町町会）氷川下町会、他町会、民生児童委員、協力団体：東京ボランティア・市民活動センター、なかの生涯学習サポーターの会、(株)Viviandkiki、(一社)D&A Networks、ユメックス(株)、CLUB NECO、大学生ボランティア(法政大学ACIプロジェクト・東洋大学・拓殖大学)、バリアフリーサークルWith you、スマイルwith K		
自団体及び協働団体の役割分担	自団体)講習会・まち歩き調査の企画、運営。広報。地図の企画作成と発信。協力団体・企業・大学との連携調整。 文京区防災課)関連する文京区各課、防災に課題感のある町会など地域コミュニティとの情報共有、広報、地図掲載情報の確認とアドバイス、地域防災講習会講師派遣、NPO法人日本防災環)地域防災講習会講師 地域コミュニティ)地図作成地域の選定、講習会への参加、地域コミュニティへ講習会参加呼びかけ 協力団体)東京ボランティア・市民活動センター：防災まち歩き調査講習会講師、防災まち歩き調査、ファシリテーターの人選と手配、なかの生涯学習サポーターの会：講習会開催協力、まち歩き調査参加、講習会・振り返り時のファシリテーター、(一社) D&A Networks : 地図編集作成、CLUB NECO : 地図編集作成・校正・印刷、(株)Viviandkiki : 地図表紙デザイン、ユメックス(株) : 地図を団体ホームページに掲載、大学ボランティア : 講習会参加、バリアフリーサークルWith you、スマイルwith K : 講習会・防災ポーチ作り参加、追加調査協力、講習会・振り返り時のファシリテーター		

提案背景・目的	<p>昨今、大きな地震があり、防災、減災、避難などの必要性が高くなっています。地震、津波、火災などの発生時に必要な情報の準備と、発生する前に必要な情報の収集、対策の策定が急がれています。このためには、国や地方自治体、区や町などの地域自治体、町会、自治会などの地域コミュニティそして、住民や利用者（通勤者、観光客）が、一体となって、密に連携を取りながら進めていく必要があります。平時こそ災害時に必要な情報の共有が必要不可欠です。ハザードマップは、文京区でも発行していますが、歩行困難者（障がい者、高齢者、乳幼児をお連れの方）の為の情報、例えば、坂とか階段、傾斜、道の幅、凸凹等の情報は掲載されていません。移動困難者に対する情報や健常者との情報の共有が不足しています。居住している障がい者・高齢者等が、どこに居られるかは、地域コミュニティや地域自治体、消防なども把握していることだと思いますが、実際に災害が起きたときに消防や地域自治体は、個々には動けないので、地域コミュニティが、この任を担うことになります。しかし、地域コミュニティの方々には、障がい者等に対して、どうしたら良いかという情報は乏しく、このままでは右往左往するだけになりかねません。</p> <p>今回ご提案の「地域防災力の向上を高める 防災バリアフリーマップ作り」－いざという時を平時から考える－は、地域コミュニティの方々と一緒に、防災・バリアフリーマップを作成することをご提案しています。</p> <p>防災・バリアフリーマップを作成することは、地域の防災に役立つ情報、状況を自分の足で、目で見て調べることにより、町に何処にどんな防災準備がある事を肌で知ることが出来、又何が足りないかも考えられるようになります。コミュニティも、参加した方自身も自分事にすることが出来ます。そして、調べたところ以外でも、意識を持って見ることが出来る様になります。また、バリアフリーについて自分には関係ない、興味がないと考えている人も、実際に車いすに乗ってバリアを体験することにより自分事として考えるきっかけづくりになります。バリアフリーの視点で見ることで、災害時の要配慮者にも含まれる移動困難者の方の対策を地域で考える機会となります。令和5年度に実施した「Bチャレ チャレンジ部門」の参加者からも「長く住んでいる地域ですが防災について知らない事が多いことを知ることができた」、「今後は生活中でも防災の視点を忘れないようにしたいと思う」、「交流があると防災にも役立つ」「車いすに乗って実際にまちに出てみると少しの傾斜でもコントロールが難しく、災害があった時はよりバリアが生じることも考えさせられました」等、多くの感想が寄せされました。地図作りに関わる事が出来なかった住民も完成した地図を見たり、参加した人から講習会の話を聞くことで自分も参加したいと考えるきっかけになります。折を見て、この地図を使った防災イベント等を地域コミュニティで実施すれば、マップ作成に参加していない方にも情報の共有も出来ます。</p> <p>平時から防災やバリアフリーについて学びあいながら自分も学びを深める、地域の人たちが共に協力しながら地図作りをおこなうことで、「防災を自分事として意識する・・防災について学び、自分たちがどのように備えることが大切なのかを知る。」「地域防災を知る・・地域の防災施設、避難所や危険箇所を地図にまとめて、地域の防災力を高めるための情報を共有する。」、「コミュニティの絆を深める・・一緒に活動することで、地域の皆さんとのつながりを深め、協力体制を築く。」「移動困難者の方への理解を深める・・バリアフリーに関する情報を地図に反映させることで、移動困難な方々のニーズを考慮し、支援体制を整えるきっかけづくりにする。」ことが本事業の目的です。</p>
----------------	---

事業内容	<p>5月：区役所内防災課にて、大塚小学校避難所運営協議会の木村会長に今回の事業説明をおこなった。区防災課、区民課、社会福祉協議会、団体金子が出席した。</p> <p>6月：社会福祉協議会、団体金子が大塚小学校避難所運営協議会の会議に出席し、防災・バリアフリー マップ作り事業について説明した。</p> <p>7月：中間報告会を区役所内防災課にておこなった。区防災課、区民課、社会福祉協議会、団体金子が出席した。地域防災講習会講師の派遣について防災課に要請し、氷川下町会より申請頂いた。</p> <p>8月：社会福祉協議会、団体金子が氷川下つゆくさ荘で、大塚小学校避難所運営協議会と氷川下町会会員の皆さんに今回の事業説明をおこなった。</p> <p>9月：NPO法人日本防災環境担当者、町会関係者、団体で講習会についての打ち合わせを氷川下つゆくさ荘でおこなった。</p> <p>10月：社会福祉協議会、団体金子と東京ボランティア・市民活動センター加納様を中心に、防災まち歩き調査のための事前まち歩きを2回おこなった。</p> <p>10月7日に第1回講習会を氷川下つゆくさ荘で開催した。大塚小学校避難所運営協議会と氷川下町会を中心に12名が参加した。区防災課より区の防災についての考え方をお話頂いた。NPO法人日本防災環境の上倉講師より地域防災についての講習とグループワークをおこなった。</p> <p>10月27日に第2回講習会・防災まち歩き調査を文京くすのきの郷で開催した。大塚小学校避難所運営協議会と氷川下町会、大学生を中心に22名が参加した。東京ボランティア・市民活動センター・加納講師より防災まち歩き調査についての講習後、4つの班にわかつて防災まち歩き調査をおこなった。調査終了後に情報の整理と地図への清書、振り返りをおこなった。</p> <p>11月17日に第3回講習会・バリアフリーまち歩き調査を文京くすのきの郷で開催した。大塚小学校避難所運営協議会と氷川下町会、大学生を中心に22名が参加した。団体金子よりバリアフリーまち歩き調査についての講習の後、4つの班にわかつてまち歩き調査をおこなった。調査後、情報の整理と地図への清書、振り返りをおこなった。</p> <p>12月7日に第4回講習会にて講習会全体の振り返りと地図情報の校正、地図に掲載する情報についてのグループワークを4つの班でを開催した。区防災課、大塚小学校避難所運営協議会と氷川下町会、大学生を中心35名が参加した。</p> <p>7月～地図掲載地域の調査用地図を作成し、講習会と追加調査後に地図を作成（校正作業含む）した。</p> <p>10月～講習会終了後に、団体を中心に地図情報確認のための追加調査をおこなった。</p> <p>2025年2月に防災・バリアフリー マップが完成した。</p> <p>2025年2月9日に氷川下つゆくさ荘にて町会に地図を各100部を贈呈し、防災ポーチ作りを開催した。大塚小学校避難所運営協議会と氷川下町会を中心に、午前の部に8名、午後の部に6名参加した。団体金子の講習後に防災ポーチ作り、防災ポーチに関するグループワークと振り返りをおこなった。</p>
------	---

<p>協働団体 or 利用者の声</p>	<p>(町会員振り返りより) 防災まち歩き調査：これまで防災に関心がなかったが、多くの新しい知識を得た。普段歩いている町会でも、普段は気づかないことがたくさんあると実感した。この地図作りをきっかけに、災害時に困らないように備えたいと思う。また、車いすの方々の移動が大変だという声も聞かれた。</p> <p>バリアフリーまち歩き調査：参加者の多くから、文京区は坂が多い街だと感じていたが、実際に車いすで移動してみると、その大変さを実感できた。車いすを押してみると、思った以上にきつかった。これまで意識してなかつたが、町会内の道の傾斜や階段などが意外と多かった。等の声があった。講習会まとめ：出来上がった地図を、どう町会員と共に使えるか考えていきたい。各町会の発表を聞く中で、狭い地域でも多様な環境やニーズがあることを実感した。防災視点が多かった。「住みやすさ」という点でもバリアフリーの視点も重要。水害や突風、坂や階段が多い等、その地域に住んでいるからわかる地域独特な悩みを知ることができた。等の声があった。</p> <p>(団体・大学生から) 防災まち歩き調査：団体メンバーより、まち歩き調査をおこなう前に東京ボランティア・市民活動センターの加納講師からファシリテーターをおこなううえで注意する点やコツを教わり大変助かった。地域の方は地域の弱みや強みをよく把握されていて日頃から防災に対する意識が高いと思った。という感想が多くあった。</p> <p>バリアフリーまち歩き調査：大学生より、実際に車いすを乗る、押す体験ができてことで利用者も介助者にも負担が大きい事が実感できた。普段何気なく歩いている道にも案外傾斜や段差が有る事に気付けた等の声があった。</p> <p>講習会第4回まとめ：大学生より、地図に掲載する情報について議論したことが今回初めてだったので、とても貴重な体験となった。地域の人達が真剣に議論する様子に感動した。という声があった。団体スタッフからは、自分の住む地域と比べて防災に対する熱意がある地域で、地域の皆さんと議論できて刺激を受けた。という声があった。</p> <p>(防災課より) 防災バリアフリーマップづくりは、自分たちが住む地域を「防災」の観点で確認することで、周囲の災害リスクを再認識することになり、地域防災力の向上につながる取り組みと言える。また、災害時の要配慮者への支援は重要な課題であり、防災バリアフリーマップの作成を通じて、地域の実情に応じた支援につながるよう期待している。</p>
-------------------------------------	---

協働による効果	<p>防災課：防災情報の提供やアドバイスや正確で分かりやすい防災情報を提供頂いた。これにより、町会の方々が必要としていた情報をスムーズに入手できるようになった。講習会第1回目では文京区の防災に関する考え方を伝えて頂いた事で、地域の皆さまと防災について共通認識を持つことができた。講習会第4回目には地域コミュニティの皆さまの議論に参加頂き、その場で出た防災に関する質問に的確に回答頂いた事で、より活発な意見交換の場を作ることができた。</p> <p>地域コミュニティ：避難所運営協議会を中心に講習会を開催し、多くの参加者を集めることができた。講習会を通じて情報を収集し整理することで、地域の防災やバリアフリーに対する理解が深まった。講習会第4回目では避難所運営協議会の課題や地図にどの様な内容を掲載するかについて皆で話し合うことが出来た。それにより、自分の住んでいる場所の地域性や他地域との違いに気付く事ができた。また、コミュニティ側の意見を反映した地図作りができた。</p> <p>団体：地図作り（デザインや印刷等）において、協力団体との分業体制が確立された。このおかげで、スムーズに地図が完成した。また、防災まち歩き調査では東京ボランティア・市民活動センターと協働したことで団体内の防災に関する理解が深まった。</p>
成果目標の達成度	<p>目標1：知る（講習会）・考える（グループワーク）→調べる（まち歩き調査）→地図にする（まとめる）・自分の意見や他の参加者の意見を聞くの行程で防災やバリアフリーに対する意識が参加者に定着する。</p> <p>成果：講習会第1回～3回の、防災まち歩き調査やバリアフリーまち歩き調査終了後にグループワークと意見交換をおこない、内容を共有することが出来た。「講習会を通じて、今まで意識していなかった町の防災やバリアフリーの事を意識するきっかけとなった」、「普段何でもないと軽視してきた歩道の段差や坂道も車いで移動することの困難を感じた」、「あらためて町を歩き、防災に関して、普段気付かぬ点が沢山有った」、「普段意識せずに歩いていた所にも防災設備がある事に気付いた」等の声があった。まち歩き調査をおこなったことで防災やバリアフリーの視点を持ち、防災やバリアフリーの意識が定着した。講習会第4回目では地域コミュニティ側から出た意見を取り入れ地図を作成することが出来た。</p> <p>達成度：概ね達成できた。</p> <p>目標2：町会、民生児童委員、学校、NPO、学生等みんなで取り組んでの地図作りを通して地域の繋がりが深まる。地域によっても個人でも防災やバリアフリーへのニーズや課題が違っている。違った立場の人から意見を聞くことで「こんな事にも困るのか」、「ここを改善すればもっと良くなる」など気づくことができ、気付くことで共感の輪が広がる。また、どうすればよりよい地域になるか考えることができる。地図作りに参加できなかった地域住民、まだ地域コミュニティに関わっていない人も「防災、バリアフリー」については関心が高い昨今だからこそ皆で話すきっかけづくりとする。</p> <p>成果：参加者の防災への関心が高まり、普段は気づきにくい地域の特性や課題を認識することができた。参加者から、「地域の一人一人が他の人を思いやって懸命に話し合いをおこなっていたことに感動した」、「日頃知り合う機会の少な</p>

	<p>い方と一緒に活動ができ、大変良い機会となった。」というお声があり地域の繋がりの大切さを共有することができた。講習会第4回目の最後に行ったグループワークでは、他町会の参加者の意見を聞いて、「狭い地域でも多様なニーズがある」、「町会の場所により防災に対する視点が違う事を改めて感じた」など、新たな気づきを得ることができた。その結果、共感の輪が広がり、防災やバリアフリーへの理解が深まった。さらに、「自分の町会に住んでいる地域の人々に今後どのように防災やバリアフリーの意識を広めるか」を考える良いきっかけにもなった。今回の地図作りに参加出来なかつた方にも作成した防災・バリアフリーマップを手に取って頂く事で防災やバリアフリーについて考えたり、地域の避難所運営協議会の活動にも興味を持つてもらえるきっかけとなった。</p> <p>達成度：概ね達成できた。</p> <p>目標3：住んでいても知っているようで知らなかつたまちの防災やバリアフリーについて、知ることができ、周りの人達に教えることができるようになる。</p> <p>成果：目標1、2の成果でもあったが、講習会、まち歩き調査を通じて地域の防災やバリアフリーについて興味を持ち、知ることができたと感じた。また、今後は町会の全世帯に地図を配布したいというご要望があり、弊団体から地図データを無償でお渡しした。2025年2月9日の地図贈呈＆防災ポーチ作りでは、各町会に100部の防災・バリアフリーマップを贈呈した。</p> <p>成果：概ね達成できた事は、参加町会の方がまちの防災やバリアフリーについて知ことができた点。課題として、今回の防災・バリアフリーマップ作りに関わる事ができなかつた方の参加がなかつたこと。周りの人に教えることができるようになつたかは現段階では判断できない。</p>
今後の活動予定	<p>令和6年度に防災・バリアフリーマップ作り講習会・まち歩き調査をおこなつたが、防災視点が多かつたように感じられたので、令和7年度の活動では、バリアフリー視点をもっと取り入れていきたい。例えば、障がい者に災害がおこつた時の経験を話してもらうことで、ご近所の高齢者や障がい者の事を考えてもらう。自分が車いす使用者の場合はどう避難所まで移動するのかを地図上でシミュレーションしてもらうなどを含めて講習内容を検討していく。また、防災まち歩き調査に参加するファシリテーターの防災知識の底上げをおこないたい。東京ボランティア・市民活動センターに協力して頂き、防災まち歩き調査を充実させていく。令和6年度の講習会は避難所運営協議会と氷川下町会の皆さまが中心で参加していたが、その中で、避難所運営協議会の活動が町会員に認知されていない、協議会に入つてもらえないという意見が出た。令和7年度の活動でも、避難所運営協議会の活動をもっと伝えることが出来る紙面（地図）にしていきたい。</p> <p>令和6年度の参加者に障がい者や乳幼児連れの方がいなかつたので、令和7年度には参加してもらえるようにな講習内容を考え、あわせて広報をおこないたい。</p> <p>可能であれば、令和7年度に防災・バリアフリーマップ作りのマニュアルを作成し、避難所運営協議会や町会だけで（説明や講師は希望あれば弊団体でも受けることは可能）作成、更新できる基礎を作りたい。</p>

別紙1：事業スケジュール(報告版)

別紙2：収支報告書

別紙3：関係者マップ

※追加別添1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ

※追加別添2：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10枚以内）

【提出先】

E-mail : fumikomu@bunsyakyo.or.jp 問合せ : 03-3812-3044 (担当 : 近藤)

別紙1：事業スケジュール(報告版)

団体名：NPO法人リーブ・ウィズ・ドリーム

実施内容 / 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地区選定・地域関係者打ち合わせ												
講師依頼・講習会内容会議												
参加者募集												
ボランティア募集												
中間報告会				●								
第1回講習会								●				
第2回講習会								●				
第3回講習会									●			
第4回講習会										●		
地図贈呈&防災ポーチ作り												●
調査内容まとめ												
追加まち歩き調査												
地図作成・校正												
地図印刷										●		
地図配布											●	
フミコム/関係課との会議	●					●					●	

*列の数・行の幅は必要に応じて変更してご記入下さい

別紙2：収支報告書

団体名：NPO法人リーフ・ワイズ・ドリーム

収入 645,910 円

費目	予算額	積算根拠
「Bチャレ」助成金	645,000 円	
団体自己資金	910 円	
	円	

支出 645,910 円

費目	予算額	積算根拠
講師謝金	30,000 円	防災まち歩き講師 20,000円 講師補助費 10,000円
スタッフ交通費	25,060 円	支出内容・単価・内訳等別紙
会議費	5,940 円	まち歩き調査・講習会事前打ち合わせ
保険代	9,796 円	講習会(4回)、お披露目&防災ポーチ作り@62円 人数別紙
スタッフ人件費	112,200 円	支出内容・単価・内訳等別紙
防災用品	19,459 円	防災ポーチ作り用
印刷費1	27,500 円	地図印刷費 500部両面カラー折り入稿手数料込み
印刷費2	8,580 円	チラシ 2回 各300部 片面4色